



発達障害のある社員を対象とした 職場定着支援プログラム

モニター企業募集



このたび発達障害のある社員のための職場定着支援プログラム（試行版）を開発しました。本プログラムの有効性の検証・改善に向けた調査に協力いただける事業所（**中小企業5社**）を募集いたします。

「発達障害者を雇用しようと思うが不安だ…」「発達障害者を雇用しているがむづかしい…」といった課題と一緒に取り組ませていただきます。

調査の内容

- モニター期間：**12ヶ月**（2026年4月以降に開始予定）
- 事前に説明会をオンライン（個別でも可）で開催します
- プログラムの実施状況を、①初回 ②6か月後 ③12か月後の3回、訪問またはオンラインで確認させていただくとともに、その成果をシェアするワークショップ（オンライン）にご参加をお願いします。
※ 何らかの活動を日々にお問い合わせするものではありません。
- 謝礼：20,000円×6回（実施状況調査3回+ワークショップ3回）

本研究は、文部科学省科学研究費基金（研究課題名：発達障害者向け職場定着支援モデルの雇用現場への実施・普及に有効な方略の構築）を受けて実施します。詳細については裏面の調査説明書をご覧ください。

- 研究責任者 川端奈津子（静岡産業大学経営学部 教授）
連絡先 n-Kawabata@ssu.ac.jp
研究分担者 新藤健太（日本社会事業大学社会福祉学部 准教授）

【研究の目的】

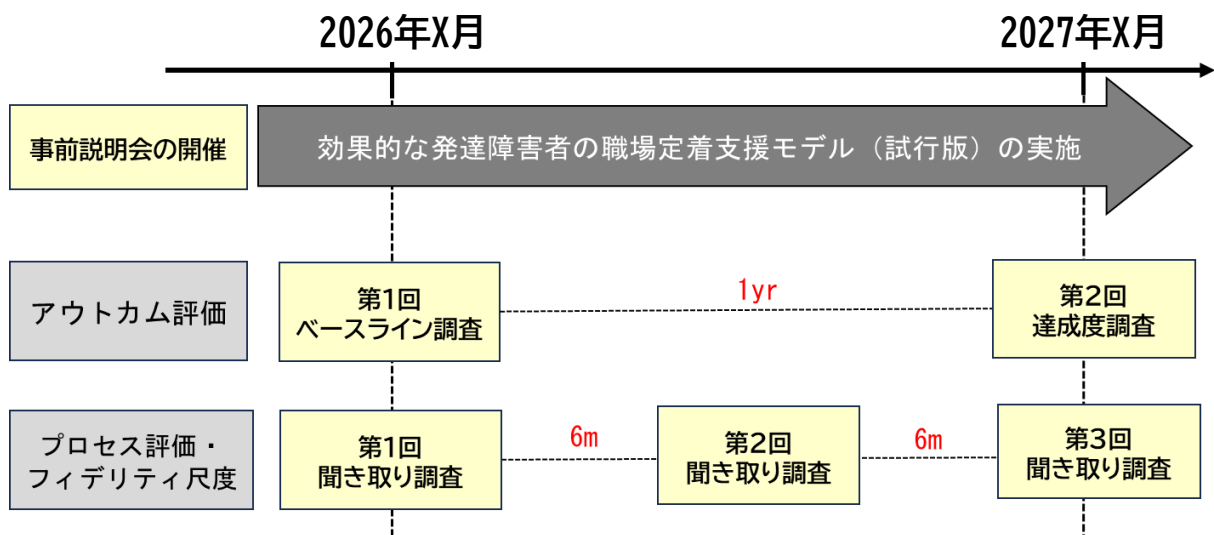
本研究は、一般企業で働く発達障害者を対象とした職場定着支援の効果的プログラムモデルの構築を最終目的としています。

私たちはこれまでに、発達障害者の雇用で実績をあげている先駆的な事業所の協力を得て、効果的援助要素を抽出し、(試行版)発達障害者に効果のある職場定着支援モデルを開発してきました。

次の課題として、このプログラムが実際の雇用現場に導入可能なのか、このプログラムに規定された取り組みをすれば意図したアウトカムが得られるのかといった検証が求められます。

そこで、本調査では、開発済みのモデルを試行していただき、その分析を通して、より効果的で利用しやすいものに改善するための示唆を得ることをねらいとしています。

【調査の全体像】



【倫理的配慮】

- ① 調査によって得られたデータは分析前に匿名化するため、企業や個人が特定されることはありません。
- ② 得られたデータは責任をもって管理いたします。外部に漏洩することは一切ございません。
- ③ データの保存期間は5年間とし、保存期間終了後は個人情報情報が漏洩しない形で速やかに破棄いたします。
- ④ 調査結果は研究目的でのみ使用いたします。なお、ここでの研究目的には、論文の執筆、学会誌への投稿、学会発表(職業リハビリテーション学会、日本経営倫理学会を想定)等を含みます。また、その際には事前に公表内容を確認して頂き、許可を得るよういたします。